

2025 年春季参加報告書

参加プログラム：国立台湾師範大学

参加時の学年：2 年生 学部：人文学部 学科：日本・東アジア文化学科

私は以前より留学に興味があり、とはいえ海外に行った経験はプライベートでもなく、数ヶ月いきなり見ず知らずの地で暮らすことには抵抗があったため、三週間程度であれば丁度いいと本プログラムに応募した。これまでの学生生活においてある程度中国語は学んでおり、最低限の読み書きをすることはできたが、リスニングとスピーキングはかなり不得手であったため、少しでも本場の言葉を聞き取れるようになり、また、現地の人に通じるレベルの発音ができるようになりたいと思い、それを目標とした。



留学生活において意外だったのは、英語と日本語の普及率である。それこそ、ただ生活するだけならば都心部であれば最低限の能力さえあれば問題ないであろうレベルである。しかしせっかく台湾まで来てそれでは勿体無いためできるだけ中国語で話すようには心がけていたが、やはり最初のころは言葉が通じなかった場合を懸念して英語に頼ってしまう場面が多々あった。また、コンビニ等において中国語でやり取りしようとする、自分の発音からか身振りからかはわからないが、自分を日本人と認識して英語での対応に切り替えられることが何度かあり、ありがたくはあったが同時に若干の悔しさを覚える場面もあった。だが、一週間程度過ぐすと、だんだんと中国語で話すことにも尻込みしなくなり、帰国直前には円滑とは言えずとも現地語でのコミュニケーションが取れるようにはなった。

台湾でのコミュニケーションを経て得た大きな気付きは、中国語といえども相互コミュニケーションなのだから、相手もある程度こちらの言葉を解釈しようとしてくれるため、物怖じせずにとだどしくても現地語で話しかけてみるべきだということである。これに気付いたのは、寮近くのスーパーで買い物した際、店員の婦人が中国語学習中の身であることを察してか、非常に聞きとりやすい中国語で発声してくれ、また、自分の発音を聞き取って訂正してくれた時であった。勉強以外に生活においても驚く部分は多々あった。国を隔てているのだから文化も違えば常識が違ってくるところがあるというのは無論理解していたものの、やはり知っているのと実際に体験するのでは全く違った。特に交通系はそれが顕著で、とにかく車間距離が狭く運転速度が速く、毎日のバスでさえ浮遊感に冷や冷やしていた。一方で電車においては日本と同等程度時間が正確で、また、飲食禁止を徹底しており、なぜそのような交通マナーとなっているのかという経緯を含めて非常に興味深かった。その他にも、水回りの衛生面においてはやはり日本に軍配が上がるが、あちらは日本以上に水筒文化が盛んで、各地にウォーターサーバーが設置してあったり、コンビニコーヒーを持ち込みの水筒に入れてもらおうと割引になるサービスが普及していたりなど、日本も取り入れてみてはどうかと思うような文化も見られた。総じた感想として学習面としての成長はもちろんだが、それ以上に現地の言葉で話すことへのためらいが少なくなり、日本では気付かなかった自国、他国の特色から視野を広げることができたという、精神面での成長を大きく感じた。特に前者は中国語で話すことにより元々の目標であったリスニングとスピーキングを鍛えるという当初の目標をも鍛えられる有意な心構えであった。

私の当初想定していた今後の目標は将来のために中国語検定 2 級を取りたいというものだったが、今ではそれ以上に具体的に日本企業と台湾の繋がりを更に作りたいという目標のもと中国語検定を目指していきたいと思う次第である。

